

1 日 時

平成 30 年 3 月 23 日（金） 午前 10 時～午前 11 時 45 分

2 場 所

小平市庁舎 504 会議室

3 出席者

○小平市環境審議会委員 11 名

奥真美会長、泉慎一副会長、阿部直子委員、飯島千ひろ委員、小倉久美子委員、
竹川敏雄委員、猪熊勇一委員、小川泉委員、橋本英明委員、市川徹委員、中島裕輔委員

○事務局 10 名

環境部長、環境政策課長、環境政策課長補佐、環境政策課環境対策担当係長、
環境政策課計画推進担当 1 名、環境政策課環境対策担当 1 名、廃棄物減量施策担当課長、
水と緑と公園課長、水と緑と公園課長補佐、下水道課長補佐

4 傍聴者

2 名

5 議 題

- (1) 平成 30 年度環境部が担当する主な事業の概要について
- (2) 市内の環境美化に関する課題解決に向けた有効な対策について
- (3) 生物多様性に関するこれまでの取組と今後について
- (4) 小平市一般廃棄物処理基本計画（改訂）等の策定について【報告】
- (5) その他

6 配付資料

- ・小平市第二次環境基本計画に基づく平成 30 年度の主な事業概要（環境部）について
- ・歩きタバコ・ポイ捨てに関するアンケートへのご協力をお願い
- ・歩きタバコ・ポイ捨てに関するアンケート結果
- ・たばこのルールに関する国や東京都の動き
- ・生物多様性に関するこれまでの取組と今後について
- ・小平市一般廃棄物処理基本計画（改訂）
- ・小平市家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行実施計画
- ・環境学習授業と「エコチャレンジの木」の実施報告

7 主な意見

(1) 平成 30 年度環境部が担当する主な事業の概要について

- ・太陽光発電の売電価格が下がってきていることや防災上の観点から、家庭用蓄電池の補助制度について検討されたい。
- ・カーボン・マネジメント強化事業では、施設のエネルギー使用状況を一般的な同様の建物や過去に全国で行われた調査結果と比較した上で、真に省エネ診断が必要な施設をしばって行う方がよい。エネルギー集計システムはある程度リアルタイム制を重視した方がよい。施設のデータは職員だけでなく、市民にもオープンにして、一緒に省エネに取り組むようにした方がよい。
- ・いろいろな自治体が自ら電力会社を作って、公共施設や民間企業に電力を融通する動きがある。小平市も太陽光発電日本一を目指すなら検討されたい。

(2) 市内の環境美化に関する課題解決に向けた有効な対策について

- ・ポイ捨てをする人は自分の地域ではしないで、余所の地域です。これまで、環境面からいろいろ取り組んでいるが、健康面や子どもに危険ということから、もっと対策を進めるべきである。
- ・喫煙できる店、禁煙の店をきちんと表示して、分煙対策を徹底していく必要がある。
- ・アンケートの結果を見ても条例化の声は多い。周辺の市はほとんど条例を制定しており、小平市内でタバコを捨てられてしまうのではと感じた。マナーだけでは限界ではないかと考える。
- ・歩きタバコやポイ捨てだけでなく、環境美化全般を含めた条例の制定という選択肢もある。条例という自治体が持っている一番強力なツール活用して、小平市の環境全体を良くしていくという検討も必要ではないかと考える。

(3) 生物多様性に関するこれまでの取組と今後について

- ・子ども達を中心とした、もっと積極的なイベントや環境学習があるとよい。環境ポスターコンクールの題材としても関心を持つ。何よりも自分が住んでいる場所の自然を知るとは教育的に良い。
- ・非常に難しいと思うが、雑木林などが減少する際、残った自然に生き物を移動させて、子ども達が一緒に飼う取組などにより、生き物との共生につながれたらと思う。
- ・生き物調査は、市民から苦情が来ているカラス、ハクビシンなどに絞って調査すると意味あるものになる。自然観察会では、ホタルなど希少価値のものや外来種も含めての観察が重要と考える。
- ・生物多様性は、地域の活性化、まちづくりに繋げていけたらと考える。また、他の自治体と連携して取り組む必要がある。
- ・生物多様性地域戦略を策定するには、市内限なく生態系の実態を把握する調査が必要である。